

四季の風

■発行責任者／病院長 曾根 孝仁
■編集／大垣市民病院広報誌編集委員会



広報 第47号

●発行 平成26年7月1日●

理念

患者中心の医療・良質な医療の提供

病院の基本方針

- 1 地域の基幹病院として、住民の健康と福祉の増進に貢献します。
- 2 患者さまの立場を第一に考え、公正且つ普遍的な医療の提供に努めます。
- 3 医療安全を推進し、安心で安全な医療の提供に努めます。
- 4 医学の進歩に沿って、病院施設・医療機器の整備や充実を図り、専門的な医療の提供に努めます。
- 5 公共性と経済性を両立し、健全な病院経営に努めます。
- 6 地域の医療機関との連携を保ちつつ、患者さまに信頼される医療活動に努めます。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。



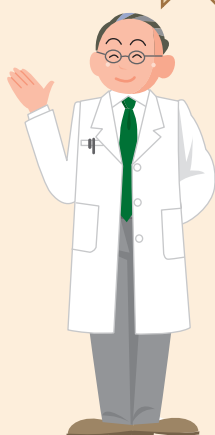
(戸隠高原)

診療部

専門医が教える家庭の医学

口内炎？

ひょっとして口腔がん？



歯科口腔外科 長縄 吉幸

この見出しは昨年、岐阜県医療整備課と岐阜県歯科医師会との合同啓発事業「口腔がん対策普及啓発事業」のキャッチフレーズです。

口腔がんとは舌、歯肉、口腔底、

頬粘膜、顎など口腔に発生するがん

の総称です。口腔がんの発生率はか

なり少なく、全癌腫の約2～3%と

言われています。また口腔はその気

になれば自分の目で確認しやすい部

位であり、早期のがんが多いと思わ

れがちです。事実最近では早期がんの

割合が増えています。進行がんの

患者さんもまだまだ多いのが現実で

す。何故こんな状態まで受診されな

かったのかと首をかしげることも多

いのが現状です。では受診が遅くな

るのはどうしてでしょう。ひょっと

したら口には「がん」はできないと

思われている人が多いのかな？この

ような疑問から啓発事業がスタート

しました。この啓発事業から将来的

には全県民を対象とした口腔がん検

診につなげることを目的としていま

す。

口腔がん検診が充実しているアメ

リカ、イギリスなど西欧では発生率

は増加傾向ですが、口腔がんによる

死亡数は年々減少しています。日本で全国一律に口腔がん検診を始めるのはかなり困難ですが、少なくともこの岐阜県は始めたいとの思いからの啓発事業です。

口腔がんの危険因子としては不良な口腔衛生状態、喫煙、飲酒、義歯・齲歯（虫歯）による慢性刺激などがあります。噛みしばこの習慣、また口腔衛生状態が良くない東南アジア諸国では口腔がんが全がんの約30%を占めると言われます。

口腔がんの初発症状として、一見口内炎のような粘膜（歯肉）の爛れ、潰瘍、疼痛が見られます。通常の口内炎であれば概ね7～10日ほどで治癒するか治癒傾向が見られます。又義歯、未治療の齲歯などを原因とする傷（褥瘡）も義歯調整や齲歯の治療で治癒傾向が見られます。このように7～10日で治癒傾向の見られない粘膜の傷は悪性の可能性があり、早めに「かかりつけ医」を受診してください。口腔は食事、会話、呼吸また審美性など生活の上で極めて大事な部位です。早期発見・治療できたケースは当然治療成績も良く、又口腔機能障害も少なくなります。

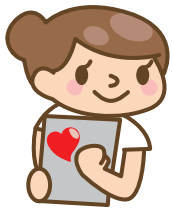
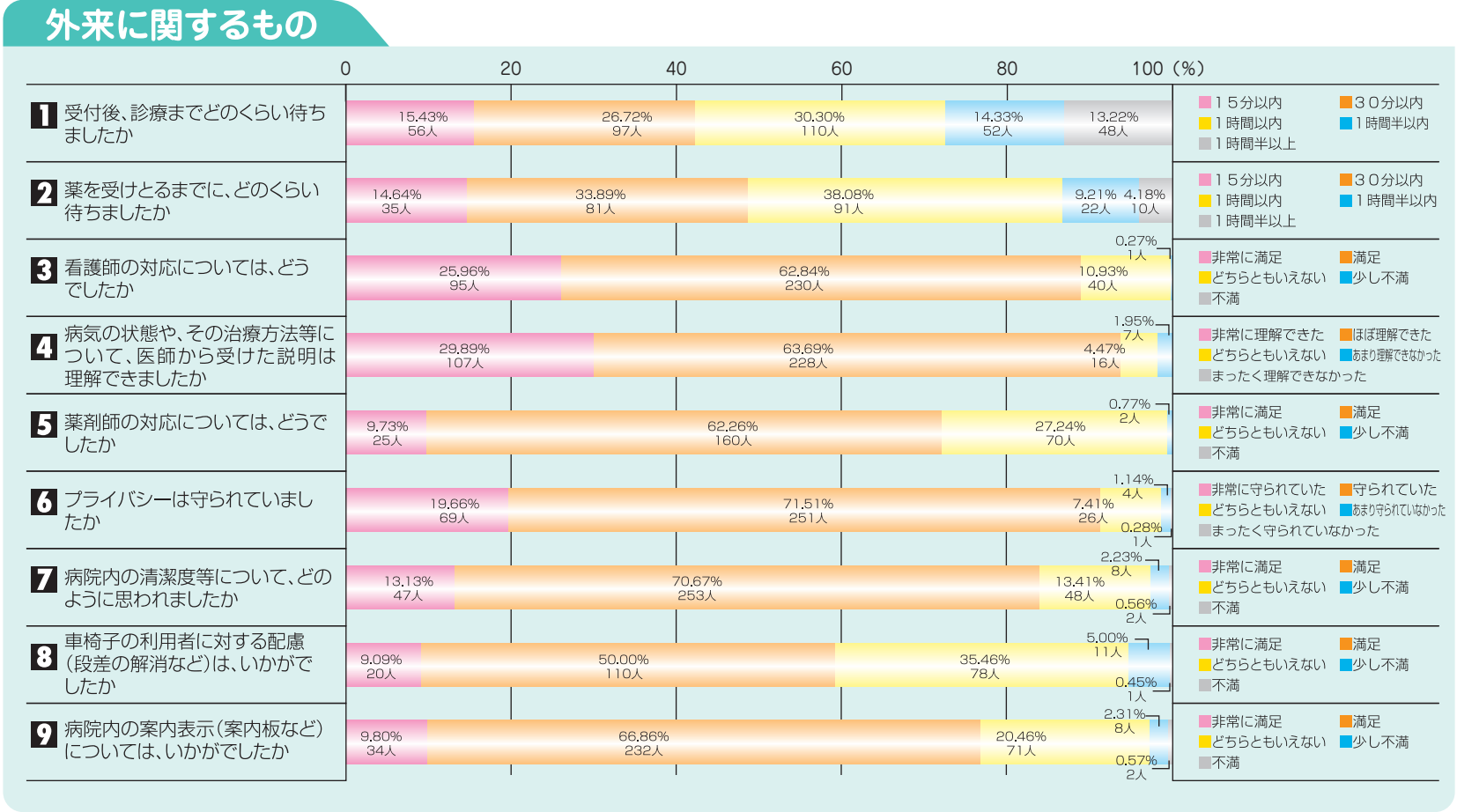
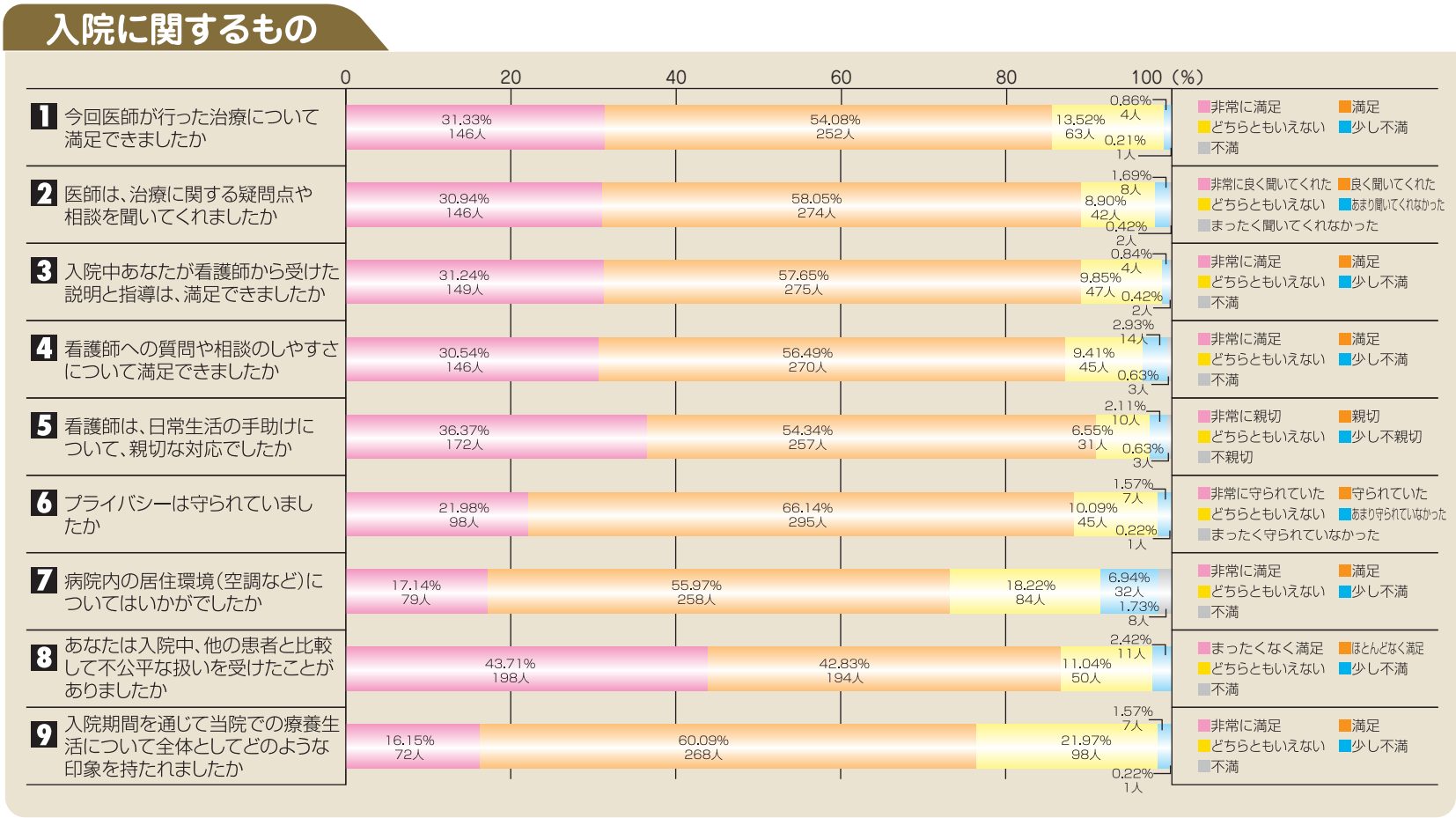
患者満足度調査

結果報告

当院では、「患者中心の医療・良質な医療の提供」を理念に掲げ、地域の皆様からより信頼される病院を目指し、アンケート調査を行いました。

平成26年1月23日(木)に実施し、入院されている患者さん、新患者さん全員、及び再来患者さんの一部を対象としました。

アンケート結果については、入院、外来の各アンケート項目(それぞれ30項目程度)のうち、次の主要内容9項目を報告させていただきます。



また、上記のアンケート結果のほか、当院に対するご意見、ご要望として、施設的な改善要望から待ち時間や接遇面等、様々なご指摘をいただきました。

今回のアンケート結果につきましては、今後の病院運営の参考とさせていただき、より患者さんに対するサービス等の充実に努めてまいりたいと考えております。なお、ご協力いただきました患者さんには心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

栄養管理部
当院の
嚥下調整食
嚥下機能に合わせた食事形態の食事

超高齢社会を迎え、嚥下機能（※1）に問題を抱えた患者さんが増えています。患者さんには、口から少しでもおいしく食事を食べていただくこと、また、食事形態をスムーズにアップすることで必要な栄養を確保することを目標とし、今年の3月より「ゼリー開始食」と「極（ごく）きざみ食」の新たな嚥下調整食を追加しました。追加により当院の嚥下調整食は5段階になりました。

患者さんの嚥下機能に合わせた食事形態を提供することで誤嚥の防止につなげていきたいと考えています。現在の病院食でむせる、飲み込みづらいなどありましたら、主治医または看護師にご相談ください。

※1 嚥下機能とは、食べ物を口から胃まで安全に送り込む機能

1 ゼリー開始食	2 ゼリー食	3 ミキサー食	4 極（ごく）きざみ食	5 きざみ食
とても飲み込みやすい	飲み込みやすい	飲み込みやすい		
ざらつきやべたつきがないなめらかなゼリー 経口摂取の開始時に利用	ミキサーにかけたものを ゲル化剤で固め、飲み込みがスムーズ	なめらかで、とろみがあり、口の中でまとまりやすい	粒が残るとろみ食 押しつぶしが容易で、口の中でまとまりやすい	5～10mmサイズにカットされ、噛みやすい（軟らかい食品は一口大） 軟らかく、押しつぶしが容易である
				
重湯ゼリー おすましゼリー エンゲリード	ゼリー粥 かれのいの蒸し焼き 白菜のくず煮 小松菜煮浸し アイスカルゼリー	全粥 かれのいの蒸し焼き 白菜のくず煮 小松菜煮浸し りんごうらごし	全粥 かれのいの蒸し焼き 白菜のくず煮 小松菜煮浸し りんごうらごし	全粥 かれのいの蒸し焼き 白菜のくず煮 小松菜煮浸し バナナ
1日の栄養量 320kcal たん白質12g	1日の栄養量 1400kcal たん白質55g	1日の栄養量 1400kcal たん白質55g	1日の栄養量 1400kcal たん白質55g	1日の栄養量 1500kcal たん白質60g

・抜歯といえば親知らずがよく知られています。親知らずの多くは、歯茎が腫れて痛みが出たり、口臭の原因になったり、歯並びを悪くしたりと口の中の環境を悪化させます。そのため、親知らずは抜歯して治療されることが多くあります。抜歯する際に、歯茎を切ったり、骨を削ったりするため、その後に痛みが出やすくなります。

・親知らずの抜歯後の痛みをできるだけ和らげたり、傷口からの感染を防いだり、また、抜歯後の口腔内環境の正常化に関して経過を良好にするためには以下のような方法があります。

- ・口の中を清潔に保つ（不潔にしていると感染のリスクが高まります。）
- ・喫煙を控える（喫煙は毛細血管を収縮させ歯茎の治りを遅らせます。）
- ・アルコールを控える（アルコールにより血液の循環が良くなると血液が固まりにくくなり、痛みが続いてしまうことがあります。）
- ・柔らかいものを食べる（食べ物当たって痛まないように、ゼリーやヨーグルト、お粥など柔らかいものを食べるようにします。）

No.4
抜歯後の
痛み止め



また、抜歯後、感染を防ぐために抗菌薬を使用したり炎症を抑えるためにお薬を使用することがありますが、今回は、疼痛に対して使う当院採用のお薬について紹介したいと思います。

●解熱鎮痛消炎薬（酸性）
セレコックス、ハイペン、ボルタレン、ポンタール、ロキソプロフェン、ロカムなど

痛みや腫れをとるお薬です。解熱作用もあり、発熱や喉の痛みをとる力に処方されることも多いです。作用機序は、炎症や発熱の起因物質であるプロスタグランジンという体内物質の合成をおさえることによります。長く飲み続けていると、腎障害や肝障害、胃潰瘍など副作用が出る場合がありますので注意が必要です。

●解熱鎮痛消炎薬（塩基性）
ソランタール

プロスタグランジンを抑える作用が弱く、鎮痛効果は弱いほうです。その反面、胃腸障害などの副作用は少なくなります。

●非ピリン系解熱鎮痛薬
アンヒバ、カロナール

アニリン系解熱鎮痛薬のアセトアミノフェンを有効成分とします。アセトアミノフェンは、昔ながらの安全性の高い良薬です。坐薬は子供や赤ちゃんに適します。ただ、炎症（腫れ）をとる作用はほとんどありません。

●オピオイド鎮痛薬
トラムセツト

オピオイドは、痛みの抑制系に働くオピオイド受容体と結合する薬の総称です。トラムセツトは、非麻薬系の弱オピオイドであるトラマドールと解熱鎮痛薬のアセトアミノフェンの配合剤です。併用による作用増強と低用量化による副作用の軽減を図った製剤となっています。

お薬は、その人にあったように処方されていますので、自分の薬を他人にあげたり、逆に貰ったりすることのないようにしましょう。また、お薬を使う点で疑問があれば薬剤師や医師にご相談ください。

また、抜歯後、感染を防ぐために抗菌薬を使用したり炎症を抑えるためにお薬を使用することがありますが、今回は、疼痛に対して使う当院採用のお薬について紹介したいと思います。

●解熱鎮痛消炎薬（酸性）
セレコックス、ハイペン、ボルタレン、ポンタール、ロキソプロフェン、ロカムなど

痛みや腫れをとるお薬です。解熱作用もあり、発熱や喉の痛みをとる力に処方されることも多いです。作用機序は、炎症や発熱の起因物質であるプロスタグランジンという体内物質の合成をおさえることによります。長く飲み続けていると、腎障害や肝障害、胃潰瘍など副作用が出る場合がありますので注意が必要です。

●解熱鎮痛消炎薬（塩基性）
ソランタール

プロスタグランジンを抑える作用が弱く、鎮痛効果は弱いほうです。その反面、胃腸障害などの副作用は少なくなります。

●非ピリン系解熱鎮痛薬
アンヒバ、カロナール

アニリン系解熱鎮痛薬のアセトアミノフェンを有効成分とします。アセトアミノフェンは、昔ながらの安全性の高い良薬です。坐薬は子供や赤ちゃんに適します。ただ、炎症（腫れ）をとる作用はほとんどありません。

●オピオイド鎮痛薬
トラムセツト

オピオイドは、痛みの抑制系に働くオピオイド受容体と結合する薬の総称です。トラムセツトは、非麻薬系の弱オピオイドであるトラマドールと解熱鎮痛薬のアセトアミノフェンの配合剤です。併用による作用増強と低用量化による副作用の軽減を図った製剤となっています。

お薬は、その人にあったように処方されていますので、自分の薬を他人にあげたり、逆に貰ったりすることのないようにしましょう。また、お薬を使う点で疑問があれば薬剤師や医師にご相談ください。

身近なお医者さん「かかりつけ医」をもちましょう

現在、国では病院と診療所（かかりつけ医）などがそれぞれの役割・機能を分担し、地域全体で患者さんに、より効率的・効果的な医療の提供を推進しています。大垣市民病院では、急性期病院としての役割を担っておりますので、症状が安定した患者さんは、かかりつけ医に紹介し、治療していただく体制をとっています。

〈かかりつけ医とは〉

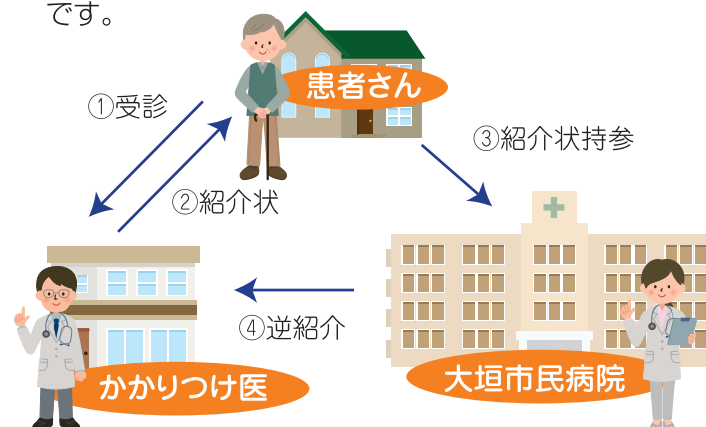
風邪などの日常的な病気や健診での異常を指摘された場合など、必要なときに専門医に紹介してもらえる身近な医師のことです。

〈かかりつけ医のメリット〉

1. 病気以外にも健康に不安を感じたら相談にのってもらえます。
2. 病状・病歴・健康状態を把握しているため、ちょっとした異変にも早期に対応してもらえます。
3. かかりつけ医からの紹介を通して市民病院に来院すれば、症状や検査結果がよく分かり、患者さんからの説明や検査の重複がなくなります。また、地域連携予約枠が取れますので、優先的な診療で、待ち時間が短くなり、さらに特別初診料（ベッド数200床以上の病

院で、保険適用の初診料とは別に請求する保険適用外の特別初診料）の負担もなくなります。

このことから、かかりつけ医を持つことは大切なことです。



詳しくは、よろず相談・地域連携課（内線 6172）へ

お知らせ

市民公開講座

演 題：「白内障について」
眼科 山田 博基
日 時：平成26年7月22日（火）
午後3時～午後4時
場 所：管理棟5階 講堂
問い合わせ先：診療検査科 内線 4521

第8回がんの市民公開講座

演 題：1.「血液がん～白血病・リンパ腫・骨髄腫～」
血液内科部長 小杉 浩史
2.「血液がん治療における看護師の役割」
がん化学療法看護認定看護師 土井 幸穂
3.「血液がん治療における薬剤師の役割」
がん専門薬剤師 宇佐美 英績
日 時：平成26年7月26日（土）
午後1時20分～午後3時
場 所：管理棟5階 講堂
問い合わせ先：事務局庶務課 内線 6135

糖尿病公開講演会

演 題：「季節が変われば生活習慣も変わる
四季折々の糖尿病治療」
糖尿病・腎臓内科 榎本 康宏
日 時：平成26年8月15日（金）
午後4時～午後5時
場 所：管理棟5階 講堂
問い合わせ先：糖尿病・腎臓内科 内線 2101

よろず相談・地域連携課出前講座

テ マ：「在宅で行えるリハビリテーション」
自宅でできるリハビリを学び、
機能回復・維持を目指しましょう！
日 時：平成26年8月28日（木）
午後4時～午後5時
場 所：3病棟2階 デイルーム
問い合わせ先：よろず相談・地域連携課 内線 6179

※4つの講座については、事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。



看護師 (正職員・パート)

随時募集

保育所完備

○応募資格／採用時満55歳までの方（准看護師は45歳までの方）

正職員：助産師、看護師免許取得者

パート：助産師、看護師または 准看護師免許取得者

※正職員は夜勤も数回できる方

○勤務体制／外来または病棟勤務

○選考方法／書類選考および面接＊面接日などは後日連絡

○申し込み／助産師、看護師または准看護師免許の写しと履歴書（写真添付）を大垣市民病院庶務課へ郵送またはご持参ください。

○問い合わせ先／〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地

大垣市民病院 事務局庶務課 ☎0584-81-3341 内線6132・6133



工事のお知らせ

託児所及び寮の改築にともなう工事のため、大変ご迷惑をおかけいたしております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



当院は敷地内全面禁煙です。
ご理解、ご協力ください。

編集後記

「四季の風」47号をお届けしました。次回は10月1日に発行予定です。「四季の風」では、今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読みやすい紙面づくりを目指してまいります。ご意見ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。

大垣市民病院広報誌編集委員会
〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715
<http://www.ogaki-mh.jp/>
（電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いいたします）